

そのことは、学生による授業評価などからも確認できる。

以上述べてきたように、社会学部では多様な教育カリキュラムの特性を活かすべく教員間での授業のあり方をめぐる議論の場を設けることに力を入れるとともに、各教員が担当する個別の授業の質を高めることに取り組んできている。具体的には、学部主催の研究会例会の場を持ち、各教員が自身の研究テーマとの関連において授業への取り組みについて報告する機会を設けてきた。

（点検・評価の結果）

シラバスの導入などを通じて授業改善を進めていく作業は、学生が履修選択に際してシラバスを閲覧していることから判断されるように、学部全体として円滑に進むとともに制度として定着しつつある。

TA制度を活用した授業改善も、当該授業に対する学生授業評価の結果等から判断して、円滑に進んでいると言える。

インターネットを活用した授業改善も、個々の教員のレベルにおいて着実に進んでいる。

（改善の具体的方策）

FDの一環である、学生による授業評価の結果を授業改善に活かしていく取り組みについては、現時点では教員によってばらつきがある。今後は、先端的な取り組みをしている教員の事例を参考にしつつ、学部全体としてより一層積極的かつ総合的に授業改善に取り組んでいくことが課題である。

3.1.4.6 課程修了の認定

【評価項目 6-6-2】 課程修了の認定（大学3年卒業の特例）

（選択要素）3年卒業制度措置の運用の適切性

<2003年度に設定した目標>

今後も学業成績優秀者に対して3年卒業制度のメリットを活かせ、適用者が増えるよう同制度を以下のとおり充実させたい。

1. 社会福祉学科の学生については、国家試験受験資格取得のためのカリキュラムの関係上、3年卒業の対象外となっているが、改善されれば内規改正の上、社会福祉学科の3年卒業も実現させたい。
2. ジョイント・ディグリー制度が2004年度入学生より対象となり、社会学部を3年で卒業し、他学部の第4学年度への編入学が可能となるよう内規改正はされているが、今後、同制度を学生に周知させ、勉学意欲の高い学生にとって有益な制度となり、学生間のよい刺激となることを強く期待する。

(現状の説明)

社会学科、社会福祉学科とも「学則」「学位規程」「社会学部内規」「社会学部授業科目履修心得」に基づき、4年以上在学の上、所定の授業科目について124単位以上修得することを卒業要件としており（社会学科：総合教育科目48単位、専門教育科目76単位、社会福祉学科：総合教育科目40単位、専門教育科目76単位、総合教育科目、専門教育科目の中から関心領域の科目を自由に選択8単位）、卒業生に対して学士学位を授与している。ただし、社会学科においては2004年3月より、一定の条件を満たした者については3年卒業を認めており、その一定の条件は「社会学部内規」に明記されているが、概略は次のとおりである。

- ① 本学大学院に早期に進学することを希望し、当該研究科が入学を認めた者。
- ② 3年終了時に卒業に必要な単位を全て修得し、かつ3年終了時の平均点が80点以上なければならない。ただし、社会学研究科専門社会調査士コース進学希望者は平均78点以上とする。

ちなみに、2004年3月、社会学部初めての3年卒業生1名（本学社会学研究科へ進学）を送り出した。また、2005年3月に1名が同制度により3年で卒業し同年4月に言語コミュニケーション文化研究科へ進学した。

なお、学部生の卒業判定に関しては、教授会の承認を必要とする。

(点検・評価の結果)

点検・評価の結果は次のとおりで、おおむね円滑に進んでいる。

1. 3年卒業制度については、審査基準が厳しいなか制度実施の2004年3月から適用者を輩出しているとともに、また、制度の運用は厳格に行っている。
2. 社会学部の内規を、2004年度入学生からジョイント・ディグリー制度が導入できるように改正した。これにより社会学部を3年で卒業し、他学部の第4学年度への編入学が可能になった。
3. 社会福祉学科の3年卒業制度は、これまでカリキュラムとの関係で国家試験受験資格取得ができないことがあって導入できなかったが、2004年度にこの問題が払拭されたので内規を改正して、2005年度より社会福祉学科の3年卒業制度を導入することができた。

(改善の具体的方策)

ジョイント・ディグリー制度は、2004年度入学生から始めて導入された。社会学部では内規改正を終え、これにより3年で卒業し他学部の第4学年度への編入学が可能となった。今後はこの選択肢を広げた同制度を学生に周知させ、勉学に取り組み意欲の高い学生のさらなる意欲の増進をはかる。なお、同制度は他学部との関係が強く全学的な取り組みにより同制度を学生に周知させる。